

大阪市立大学全学同窓会女性部会（WPC）発足フォーラムの開催

平成27年5月15日（金）16時30分より、大阪市立大学学術情報センター1階文化交流室にて大阪市立大学全学同窓会女性部会（WPC：Women Promotion Center）発足フォーラムが開催された。32名の参加をいただいた。

ご挨拶

児玉隆全学同窓会会長のご挨拶、森本喬有恒会副会長のご挨拶があった後、女性部会世話人代表畑田美智子氏より女性部会の趣旨説明があった。

文系学部同窓会の有恒会は130年の歴史があるが、運営を行っているのは男性である。しかし、卒業生をみると女性の占める比率が高くなってきていて、有能な卒業生が多くおられる。そのような人たちに能力を発揮していただき、力を結集していただくため女性部会を立ち上げることとなった。これからは女性の生き方、考え方を世代を超えて交流していく必要がある。女性に優しい大学なのだとアピールすることによって、有能な女性が大勢入学してくれるようにイメージアップを図っていきたい。

ゲストスピーカーの講演

次に、3人のゲストスピーカーによる講演が行われた。現役学生にそれぞれエールをいただいた。

●株式会社マザーネット 代表取締役社長 上田 理恵子 氏

大学で学んだことは基本になっていて、仕事に活かしている。大学時代の友人は財産になっている。継続は力なりなので、今は不本意な仕事でも自分を信じて自分のしたいことを問い続けると夢は実現できる。一度しかない人生なので自分のしたいことにチャレンジしてくれたらいいと思う。

●谷口建築設計室 一級建築士 谷口 美樹子 氏

仕事の内容は主に戸建て住宅の設計・管理である。目の前にあることをこなしていただけなので、続けてこられたのかなと思う。いろいろな家の設計を行ったが、偶然の出会いが多く、このような思いがけない出会いが繋がってきていると思う。人と人との出会いを大切にしていって欲しい。

●アスカ法律事務所 弁護士 矢倉 昌子 氏

成績にしても就職にしても女性の方が優秀だと言われている。男性ができることが女性にできないはずがない。一番のネックは家事・育児を女性が担わなければならないという社会通念であろう。これを変えていかなければならない思いでこれからの選択をして欲しい。

質疑応答

ゲストスピーカーの講演に基づいて質疑応答が行われた。働いていて女性だからということで困ったことは、ワーキングマザーとして働いてこられて一段落した今、専業主婦とどちらが良かったと思うか、生活面、特に子育てにおいて女性として困ったことは、などの質問が寄せられた

発足会の総括

商学部の下崎教授より、発足会の総括をしていただいた。

社会に出た時に助けてくれる、相談できるといった見えない支援体制が女性の場合は弱い。女性のネットワークによって支え合えるようになるのは良いことだと思っている。仕事をずっと続けていく、あるいは専業主婦になるという選択に迷った時に先輩がこのようなことをしてきたというロールモデルがあり、相談ができると助かる。男性顔負けに仕事をする人（バチキャリ）もいるが、最近の傾向として仕事はするが、生活も楽しみたいという人（ゆるキャリ）が増えてきている。自分ほどのようなキャリアを進んでいくか考えなければならなくなっている。その時にこのネットワークをうまく利用して欲しい。